

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
工芸 Craft		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	村上 芳明	
概要				
<p>粘土と木を主材料として製作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら造形する粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの製作をおこなう。</p> <p>後期では、削って造形する木材を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを学ぶ。実際に材木を使ってペン皿やペーパーナイフを製作し、電動糸のこ盤の使用方法や木材の加工方法をあらためて学習する。後期のみ、採用試験対策の為、持ち込み不可の試験を行う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。</p> <p>(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図に反映された作品を創造することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】 1 授業演習の概要についてと心構え 2 概要及び焼物用粘土の取扱いについて 3 粗練りと菊練りの練り方 4 土鈴の製作 5 玉づくりの製作方法と製作 6 玉づくりの底削り方法 7 板づくりの製作方法と製作 8 板づくりの製作 9 板づくりの底削り方法 10 ひもづくりの製作方法と製作 11 ひもづくりの製作 12 ひもづくりの底削り方法 13 ひもづくりの底削りの仕上げ 14 施釉 15 鑑賞・評価		【後期】 1 概要及び木について 2 ペン皿作品のデザインを決定 3 ペーパーナイフのデザインを決定 4 糸のこ盤の使用方法和役割り 5 切削手順と方法 6 彫刻刀による切削方法 7 ペン皿の切削（荒彫り） 8 ペン皿の切削（中彫り） 9 ペン皿の切削（仕上げ彫り） 10 ペーパーナイフの切削（荒・中彫り） 11 ペーパーナイフの切削（仕上げ彫り） 12 サンドペーパーによる研き作業 13 アクリル絵の具による着色 14 仕上げ（ニス塗装） 15 鑑賞・評価		
テキストおよび 参 考 文 献	「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領 第7節 図画工作			
メ ッ セ ー ジ な	毎回の授業の取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が十分に身につけている。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が概ね身につけている。	粘土と木の素材の特性を概ね理解し、技法及び道具の使用方法は理解している。	粘土と木の素材の特性を理解できず、技法及び道具の使用方法も理解していない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案できている。	課題の内容を概ね理解し、自分なりのデザインを考案できている。	課題の内容を概ね理解し、一般的なデザインであれば考案することができる。	課題の内容を理解できず、一般的なデザインも考案することができてない。	作品 (関心・意欲・表現力)	45%
(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図に反映された作品を創造することができる	素材の違いを理解し、自らの製作意図の通りの作品を創造できている。	素材の違いを理解し、自らの製作意図の通りの作品を概ね制作できている。	素材の違いを概ね理解し、自らの製作意図に近い作品を制作できている。	素材の違いを理解できず、作品を制作することができていない。		45%